

CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

アミロイド分子治療の創成をめざして

(II) A β 重合開始機構の解明と薬剤開発への展開

認知症先進医療開発センター

柳澤 勝彦 センター長 (研究所副所長)

平成 25 年 1 月 10 日(木) 16 時 00 分～

第 1 研究棟 2 階会議室

世界の製薬企業が鎬を削るアミロイド標的薬の開発では苦戦が続いている。有望視された A β 産生酵素阻害剤 (γ -secretase inhibitor) の臨床試験では有効性が確認されず、また予想外の副作用出現の可能性が浮上し、中止に追い込まれる開発が相次いでいる。一方、アミロイドに対する免疫療法の開発も、明確な有効性が確認できないまま推移している感がある。これらの事例を受け、アミロイドを標的とする治療薬開発の妥当性があらためて問われるなかで、近年進展の著しい脳画像診断によって得られる情報は、アミロイドの病因性にさらなる支持を与えている。本報告会においては、はじめにアミロイド分子治療の開発が依拠するアミロイド・カスケード仮説をめぐる最近の知見を整理し、これまでの治療薬開発が失敗に帰した背景を考察する。その上で、我々が推進する A β 重合の開始点に働くアミロイド形成の”種”を標的とするアルツハイマー病先制治療薬開発の進捗を紹介したい。